

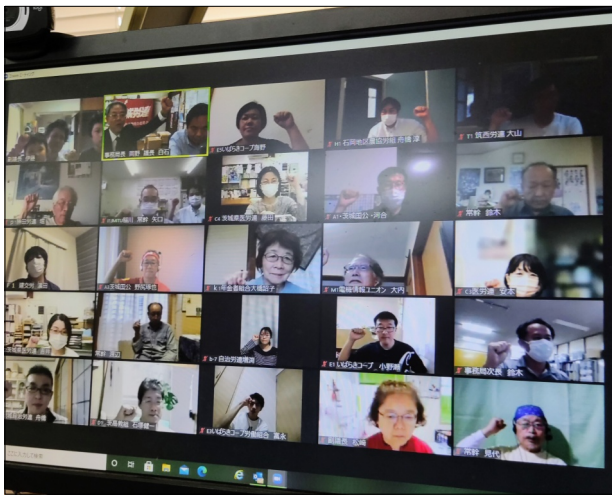
# 茨城県労働組合総連合第33回定期大会報告

## コロナ禍だからこそ、組合活動と仲間づくりを!!

# 茨城労連通信

東茨城町茨城町  
谷田部295

029-219-1031  
ibaro@mc.ejnet.  
ne.jp



茨城労連第33回定期大会が、10月9日(土) 13時30分よりオンラインで開催されました。今回の大会には全労連の小畑雅子議長が参加し、来賓挨拶をおこないました。小畑議長には大会の討議まで参加していただき、各組織の討議も丁寧に関心を持っていただきました。以下は、11人の討議の概要をまとめたものです。

### 討論より

**(医労連)** 医労連の定期大会は茨城労連の岡野事務局長の協力もあってオンラインで開催できました。(茨城労連はスリームに年間契約している)ので、各組織で大会を行うって招待メールを各組織に送信してオン

ライン会議を開催できる。他の組織でも茨城労連のズームを活用して、会議や学習会を開催しよう。

コロナ禍の中でありながら、行方医療センターが外来のみとなり、石岡でも病院が縮小されている。政府の病床削減は許せない。

コロナ禍の中で、組合も執行委員会が開かれず日常活動が減ってしまっているが、組合活動の見直しも行って

医療現場での給与削減に対して定期昇給を実現させることができたら、組合のねばり強

いたかたの成果だ。(いばりきコープ労組) 今年の春闘では五百円のベア、アルバイトは感謝金だけだったが、パートで20円のベアを勝ち取った。コロナでコープは仕事が増えて

いるが、組合の団結がなければ賃上げの要求は実現しない。東日本大震災から毎年、福島・宮城・岩手の現地調査と学習会を実施してきたが、10年目の今年、オンラインで学習会を実施した。

**(全国一般)** 介護職場トウルケアの4人の介護士の解雇撤回の裁判が終盤を向かえている。4人のうち1人は

今年和解が成立し、未払い賃金と解金が支払われたが、職場復帰はできていない。証人尋問が12月9日(木) 10時からと12月21日

(火) 10時半から水戸地裁で開催される。傍聴参加をお願いしたい。(高教組) 入試の採点

は採点誤りに関わった教員を約千人処分した。しかし、採点誤りは記述式の回答を求める問題が多くなって、採

点に時間がかかり夜の10時11時まで採点をせざるを得なかったからだった。しかし、県教委は採点方式の見直しだけを進めようとして、8月に

採点シミュレーションを行ったが、10人分の採点に90分かかってしまった。昨年の受験者数を考えると30時間かかることになる。入試倍率が1倍を切っている現状を考えれば、入試そのものをなくすべきだし、

土日でも使って採点をさせようとしているが働き方改革に反している。(自治労連) 4月の組織拡大では、新採者加入促進のために「動画」

を作って新採者に動画を見てもらって組合の紹介や加入の呼びかけを行った。今年の人事院勧告で

は昨年に引き続き15ヶ月のボーナス削減が勧告された。15ヶ月カットは年8万円の引き下げになるが、コロナ禍

の中で仕事の量が増えていることを考えると絶対に納得のできることではない。今後3日目のワクチ

ン接種になれば、市町村役場に新たな仕事が増えることになる。(建交労) コロナ感染者は特別休暇になり、

組合の交渉でワクチン接種日は特別休暇になったが、翌日副反応が出て休む場合は特別休暇の対象にさせることができず有休で休むというところになった。(電機情報ユニオン) 日立製作所は会長が交代したが、コロナ禍でも過去最高の収益を

上げています。儲かるところには金をかけるが儲からないところにはお金をかけず、結果的にリストラを強行している。

最近加入した40代の女性は、スキルアップを理由に追い出し部屋送りになってパワハラを受けていた。3月には東京で行われた省庁

要請行動にも参加し、国に対して本人が告発を行った。(医労連) 30年前、茨城労連は一万六千人で

出発したが、現在は組合員数が半分になってしまった。組合員が減るとパワハラが増えて、組合員も元気がなくな

る。以前は「わくわく講座」があって、茨城労連の組合員が集まる場所があった。組織拡大で声掛けをしよといっ

ても、おしゃべりの場を作っていく必要がある。オンラインで交流会などにも取り組んでいく必要がある。それから、労働相談に大江さんが新しく参加しているという話だが、大江さんについて

スなどで取り上げてほしい。(JUTU) 職場では、パワハラ・セクハラ問題が出てきている。コロナ対策でワクチン接種を受けた日や副

反応が出た場合、特別休暇になることを組合が要求して実現していく必要がある。(石岡農協労組) やさと支部から参加しているが、やさと農協では

石岡市から委託されて温泉「ゆりの里」を運営している。昨年からのコロナ禍で、お客の入場が減って赤字になってしまい、

昨年は12月の一時金が削減された。今年は10月以降コロナ感染者が減少して、「ゆりの里」の入場者

も増えて赤字経営から抜け出せそうである。最低賃金が879円になって、初任給が最賃割れしている実態があるの

で、現在交渉に取り組んでいる。農協の職場では、共済の推進にノルマがあったり、未達成者に対するパワハラが問題になっている。石岡農協労組のある職場では、最近



パワハラを繰り返して、部下が病気になるったり休職したりしている職員に対して解雇処分が出された。

組合でもパワハラ防止のための取り組みを続けてきたので、大きな変化が生まれている。(茨城国公) コロナ禍でテレワークが増えているが、一方的にしないという指示になっている。テレワークの光熱費は自己負担になっている。

人事院勧告が出されたが、仕事の量を考えればボーナス削減は納得できるものではない。

今回の茨城労連の役員選挙に、候補者を出していないので各組織の皆さんには申し訳なく考えています。引き

続き、組織内で検討を深め、一月の評議員会までには候補者を選出して補充選挙を行うつもりでいたい。

**今後の予定**

**21春闘学習会**  
12月11日(土)  
13時30分より  
完全オンライン  
記念講演  
講師 竹下武さん  
(全労連憲法平和局長)

**第68回評議員会**  
1月15日(土)  
13時30分より  
完全オンライン  
評議員会終了後、オンライン飲み会・交流会実施予定。

**総選挙結果喜び**

10月31日の総選挙は、市民と野党の共闘による政権交代をめざした最初の選挙でした。大きな成果が生まれたものの、短時間の取り組みの結果不十分な結果でもありました。

選挙後に、自公政権、日本維新の会、国民民主党、連合などから市民と野党の共闘に対する疑問や反論が巻き起こって、市民と野党の共闘は失敗だったという意見がマスコミを通して広がりました。

しかし、小選挙区制のもとでは、立憲野党が共闘して、候補者を一本化しなければ、選挙に勝つことはできません。市民と野党の共闘こそが、市民の要求を実現する唯一の方法です。

今回の総選挙では、市民連合と4野党が「共通政策」に合意しました。「共通政策」の中心は全労連や茨城労連などの民主的な労働組合と国民運動がこれまで取り組んできた要求運動を反映したものとジェンダー平等や地球温暖化対策等現代的な政策課題を盛り込んだものになっていきます。

今回の総選挙の成果と課題を踏まえながら、茨城労連は「共通政策」の実現をめざし、市民と野党のさらなる共闘を具体化し、来年夏の参議院選挙に取り組みたいです。

そのためには、左の談話をもとに、各組織では労働組合と選挙に関する対話をすすめていきましょう。

茨城労連議長談話

2021年衆議院選挙の結果について

2021年11月9日

茨城県労働組合総連合議長 白石 勝巳

10月31日投開票の第49回衆議院選挙は、9年に及ぶ安倍・菅政権を終わらせ、市民と野党の共闘による政権交代をめざす初めてのたたかいとなった。全国289の小選挙区のうち214区で候補者を一本化することができた。茨城県においても、7つの小選挙区全てで市民と野党の共同候補を擁立して選挙戦に臨むことができた。

10月31日に行われた衆議院選挙において、自民党は公示前の276議席は下回ったものの261議席を獲得し、単独での絶対安定多数を獲得した。投票率は戦後3番目の低さにとどまり、自民・公明政治に対する批判はその補完勢力である日本維新の会に流れる結果となってしまった

しかし、59選挙区で市民と野党の共同候補が与党候補に競り勝ち、自民党の重鎮・有力候補を落選させた。全体として議席を伸ばすには至らなかったが、多くの選挙区で競り勝ち僅差で落選している現状を考えれば、小選挙区の下で野党共闘があったからこそその成果である。

茨城県では、市民と野党の共同候補のうち小選挙区で当選したのは1区の福島伸亨候補だけだった。しかし、自民党の候補者を落選させて、無所属の福島候補が当選できたのは市民と野党の共闘の成果であり、6区の青山大人候補と7区の中村喜四郎候補は小選挙区で落選したが比例で復活当選し、市民と野党の共同候補3名の国会議員を作り出すことができた。

こうした選挙結果を受けて、市民と野党の共闘に対して批判的な論調が選挙後巻き起こっている。しかし、市民連合と4野党が合意した「共通政策」は、「最低賃金の引き上げ」や「福祉・医療・教育の充実」、「ジェンダー平等の社会の実現」等を含む6本の柱と20項目にまとめられ、全労連、茨城労連の要求とも合致する政策合意となった。同時に、「共通政策」を実現するための政権づくりまで合意に至ったことは画期的であった。

しかし、短期間の選挙戦では、市民と野党の共闘の意義を全ての組合員、職場の同僚に広めることができなかった。何よりも投票率が戦後3番目の低さであることを問題にして、「要求運動と政治」「労働組合と政治」のあるべき姿を日頃の組合活動の中で議論し、憲法改悪を許さず、「賃上げ」「最低賃金1500円」の要求運動を強化する必要がある。

茨城労連は「共通政策」の実現をめざし、来年夏の参議院選に向けて、市民と野党の共闘の意義や選挙戦で争点になったジェンダー平等や温暖化による気候危機打開などについての議論と運動に取り組み、参議院戦勝利のために奮闘することを表明する。



労働基準監督署の労働相談員として経験を積まれた方です。

勤務は、火・木の週二日で、パワハラ等の相談があるのと丁寧に相談にのられています。

相談者には、組合加入も呼びかけています。

茨城労働相談センターの相談員に昨年十月から大江光三さんが勤務されています。

大江さんは水戸市在住で、民間企業を定年退職されてから、茨城

退職されてから、茨城



以上。